さきのもくろく

一个

特別
へ12
4874
2

特
N12
4874
2

57 6061

狭衣卷第一　之下

源氏のまきをかりてあとうつしとめんとて見ゆるを見せたまいしにとりのみなるかきをもて成はまいて
まとてつくりたるうきたいいとをかしうきこえ
ひさしかりしかなをいてきそさはへまよひて成見竹人と
人めあそうハふ事ふけきとめさまくうの里をも
ぬ仏りへのうとまーうれほう捨てみいのてのさる
うたよきてうーせやういーー竹へきいてまの此此
ぬくとやめへまよひくまの紅たみそぬにに
ある里くるるひぬぬたうさ年里ゆへまい木を
こうるこにたちまーてのの旅ともにこうこせ捨ある里
をうとくまいつまそきん捨ぬうまつ紅ゆうう言り
とそちのやうにぬ竹へ成ぬよらいのさき所末下なとを

京都帝國大學圖書

先（春の前）

をとこ、まてつきのようをいまくしけまいかを
いやをそたるこをおほ孫と「くく言れ思めへき例乃
やうゆをえそひきおりは渉かをいやをあらく成く
ちをうちけてこりんみすあーくふきくつまそ
帰あふを成ほきなるまれらはーふ面へ保渉
かをりくめ渉ゑ昔ひつ咲たくの乃うを里なをい面
をー先者くる事ゆをなるうち思をるこをとをみ牧
面くひなくーをゑを外ふ序あるを面のうくー
ほハみ秘を一よりー面をり実拾ともわくよわほ
まくおほゆ教ゆをあををう井れやりをたくゆま
まそを滅まくおりを絵ふいをくしれ渉こをきを
思へけまを面きくをーふけてなきのせんをゆなを
やをたまへ実見れ家渉ひて例乃まづくく

たかーくう孫ハ大文を牧ともやをこ絵をそよべうち
よりたひくくう孫を絵ーいハ渉にくに拾しを
ひーを牧くれ渉乃円絵のもとにせうそを拾ー
外くを面ひくくーを事実むりくう外めを面ふくく
ゆを者くを何事を内ふ面くを思ふ面にいをや
りのを面へ者事ふりくをうりけ渉、ゆへ面をへれ。
おやけをくりくりけ渉ーあをを面を利それ。
渉いくへをいふをを者ゆをなるを外くそを乃きいをなくを思を
氣色をつるいこれくりんをうゆをこそ絵りけきを渉
乃ゆーれたいの渉ゆ川らひをなふあをとゆをと者
ふ面へを故きをいを乃文ふりりを面君のむすめを
かをこいへ者ゆへやりをりを面君のむすめを
をそなをとやをこ外くりををうのうへ。ひくへ。やりくつま

（毋宮付）

親氣なる

（女房の女房）

（毋上の）

（毋宮の）

（中務の）

（毋こん）

（中将の）

（中将の）

（中将の）

（当）

（女房）

（中務の）

（毋上付）

（北屋）

（毋こん）

（中将）

（中将）

（中将

をのこ子のことあやしき筆宰相中将の子と式部丞の兄なり

くれなくはめうせんさやうにまうすやあらんあるまと、宗はかるゆくふとなんきくしそもさうるへきぞうあるあるきんなとのもいたまふそれをあの序みるくあまるけうしまさにおもうやあらんりうりうあまさめうろ人あそうりやはーけまをのふへまんうまあれおとそ酒のあらまをおかーうろ学まれけりあくるろ人たるよをくるーあるはさあるあれ木支例のゆくしまを事ふくらあまへれうそをいうそれとていをいあ

くしとおかーうをかりいろれ事をそよかくれはーまをよりすをそあくくしろあはーふんのうはをまーていふなとおりひ

朗詠蟬鳴黄葉

源氏宮

はくあらあるりはをこかまあるーらいをきまに文をまれまをあるあるーしてそにはくあみ人くを物語ーのふふ渋おをなちこくをありあをけなる中ふをこのはのやまくにあれ出をろ我見りくーたまふさ

ようたそくなるおをもれ思ふあをうろ妹にをとをやをはるなとはすういひはをうそーて蟬くをもうようふるひくうんきう秋風と思ひやうにおをんしふ渋殺めくをけあれ事あまをとわうきくいしふりめてをりーくありひうくくわあるをはくるをあくうりまてるはひみちくむくひをる人を酒思ひをを忘はくくやうなあるあひきあーなとをひとんりかちりうふをそなーはそそいくくを

2

おもて。ふちよりなるなどに思ふ事あるを見るにつけてはう
ゐぶ席をまゐりまゐりてわたりくらべるのあるはすべきを
ふかそげなる口をさひなどのつくしーのぬしいはのうき
ちひをもなるきはへまよ波。ふ風こ見れくれりまうに
ひをさきわさは花れ色をわうーう見わさはぶくよ
袖ようかーをさわさ波露をあよたまらぬうや雲
詠出ーてとこみを立給りた出のこ色く野ゐ世れ
ゆく地ーてうーうぬしれをみさ袖あびたる波わま
たよとゆとうーうおぶ袖立り月あくふけり
きーゆうーうの紅れ文ゆのびうーんを立風を
袖と思ひいそらを給ふ。わゆ袖けをーね。れりをな風
へーわたをーて見ゆ人をーみゆーやゆはるをーるくく
志とをなとゆまくを袖りてをーはくをみそゆあ

ーう吹風こさうー風ーうんと後ゆうく祇うちかをし
上風をうふかをらひ給にひ風乃陣源氏宣のありさ風思ひ
いそらくふゆ袖ーるよゆれゆうぶーなとゆを
なゆゆなくさひへ妻そを思いそらをなくるをさ雲
けをうく袖しゆりをーくさ風うりうをゆ
をけなとよををーを酒をのけをーらうゆくーー
うゆ思をーなとのあーふまをらうゆくをでい
えゆふまーくゆ世ゆはりふ事ーゆふまーくゆ
ゆりをてーを思ふ世をーりををそやゆんと
思ひをくゆらをふをきをいのゆ袖を波ハまりをを
いのくゆうーんとつをりをりのけりけゆ風
氣色乃ゆりまゆれゆ久世ようーきらく地ゆ
をれそよの人なとゆやうなるゆりへをとをふ

古今
あそこここもとん
中ハ見れかれあ
そをそこふるのこ
まんうくみイ
ちすしこハきすあ
すをまけきこ
あるすしこの月
さもあしそあ

月を惜む

かくてすくしつる頃いつのほどにか葵のこのあく
見そめおきて後をみもてん事は表に行くそこよりなほ
さうこいのく唯なほ後
いひきんふまをうへ後ほーうりくふ物をとそ
をしのこひ外へ出れすあーぬきこうなとさやう
ふ物月のけに女房をなほとおきてわこ後人ふ
あそれいしめ後わうこのかとを思ふをなほ者のむ
へよ涉ありさ後うハかやうりおかすてさうん
狂に月見れ羽風ふ後ようひなんこそ仏よくうめ空
思へ人ふ者よなこてこぬるをはた
ふ見をかかをぬところ
花かりをかつ見うたるもあふりのをなさうれ
思まふ水やたえなんのめこそなるいひあーを

女房

けそひなとわうひたふ中ハ人もれういをらうこ
年ぬとも思ふこうこ後ーみうけきこふの
思まふ水を絶せーかくいをうこうこうこ事を思ひ後れ中ハ人ハ
なうこ見てをふ乃かとをいを後見ふひてん「なーりぬ」
かふ後ハ事なとを人ーいふ後とをこうこうこ言ひ
仏ふかふ中ハ事なのハ後ハうあるともわこうこの仏
ハ中ハをあこうーをなん思ふなとを後ふうを
らひおまくふいをうふーこうをまこまをて後ハうくること
なんとやかのめうくふ後をーふ後見後ーと思ふ後を
思ひこうこをすあーんくーれこ後ふ
たふなうに中ーくれほーを後ーんふをあこまーう
こうーこれをーりふ後なくて後こなんをあひ
とうこうこハ後をくーりふ後ーこうーをる仏れかと

女房

かの那と志たりそいふおもかいてんをそうん宮思ひに
世きやふうさみ紀神のし一かうこ殘君ハ兵ひとへ
うわのひさ風さ風ま（てさそぞうも）ひ（ひ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ

うくちらし思ひふむうへらまてはりたるぶまくく
資をてふさうまはなよいと我みをあぬあくはして母まと
面とひ外なりう勢みしあくくらの乃悔ぞくはたのき
まりとひしてくんうすあらて世に味わふふさうふ
なを親族の
ゆんつ夜りの見ーまがかみそかさりいきりの
うのこさらす何とくく覚ゆるありりをんのあまきを
かくふんんひ行をくはんくはんくはけあて
なくさはみちくまうへ時ニ見外ニにいて為とりの
しく見外人変こ為の那ふら流さ為みをはてうす
うふはほうるくん人のをさ為なをきいてうをこう
まかりひたあはをやわてうへりりをうつあはには
ちくくさはなはたりくくいさき事をを思
へうまくく為ふはんはみまりせうはくりの親とまくく

母代

為の親

契沖云つりかや、親ヲうめ在へきんなとを記とまらとりつ俗ふとり親とり

まをの袴裾
はまをまをまを
うちう

うわりのうどの男ひやわをくあ限とを吹をを吹
あのあうくをせくはふとなまは為上人紘大まをて
ものをせてはくくをくまはいをいを為めり。為を
たくあらをのをのきふてくまれうう仏地してある
みをはらはを為らまたまん恨をはうをある為
なとれめてあくたなを我為ともを覚て思成人をまを
仏のうちみは毋やめのあのとなとりまをとを見ををう
まりうはいて人なをくりあうんを明くれいひ
ありひたまはをようなき人にはう為らまてはみ
思ふ事をいてはりはきを事をはくはをくをうう
うて為をりむりひたまやうみはゆ為事と思ひ
はくを為てはを思ひてうられを為言う為をとたくを見る
みをうはをを為をなをきやうまてそたをまくを為

関ふあうれはるやうはほあるる

九月の中の十日のほどに、中宮の君中
納言に成のぼり給ふ。是をいと面白く志け
おもひ給へ、まとはれ給へこゝろやとてたゞにまゐれる利
益なき所なれこゝろひやひやとして、東宮の御事外ふ
とそはく涙ひたすらくまゐる父の面乃涙ぬぐふ。さて涙いり給
へるかゝちあり。さる所なとはうさくるぬ御様人て。父大臣
ゆくへ知ぬ乃を見給ふ。涙こゝろいみを
あへ玉ひて氣色まさる。涙こゝろいみを
こそりみを見てゝ。けなく哀とけ給ひき
大弁を乃くゝ涙ぐ。さて東宮の人ゝ涙つゝみ給ふ
いと面白あ表れ給ふ。御まへを見給ふ
中納言乃やうみつ宮乃ゝ涙をゆゝ。然わさとめ給ふ
すあゝ乃そ紀の人へいみもとらくゝ。ゝわて人を

あまさけそひして涙ぐ。中宮の御君の中
人ゝを物まさなんわゝ。涙ぐ。
ゝを物をとゝ。涙ぐ。
ようぬしてあゆこいて外人。
はゝくあそひをいをりのはゝ。
ふまゝとも。
そゝわゝし。すそう
ゝをそひをかくひき。
ろひさはくきあ乃。
やをすゝいたくしくこ
ゝぶやゝ宮酒ゝそ。
しゝてまゝ面てゝ乃ち。
わゝゝ人れゝきこの

やをくゝ

なまるを

源氏かけうふの花コ
ちろさ〻ち物のを
そきこゆ〻人のミを
らゝさき人をえ
あつもれこゝろ
ゝもあ〻さう
ゝりと花のゆゑ
ちる人ハきゝ〻ふ
つゝちるとのこゝろ
そするをゝと

ゝにいとうゝ
あゝん徴にめてたゝる
三川原殿上人なとゝ
原へ原いゝ
まてうめ〻くゝ
うゝ三味ら
人を始ゝ

ゝ

ふようゝ 不役 ふえゝ

人ゝの御 そゝやゝ

なくて我ゝやまゝ
つゝ三原ゝ
わりふりめ
ゝ
むるゝ
いりゝ
ゝ
なゝ
ゝ
ゝ

おもてをかなるかのとそすあ
みそのうちをぼーけるをおくるわ人よりきそ。ホ
ヤ乃まへなる人ーたくうこさ弦たくとよミ
うけらとぼくめくあ花わ君ぢあ殺をよきはろハ
うにくとわらひいまいあるはゆれ色このみ
をとてうこのわうをを扇していくくうつあれたう
ぢ。をあ。とて。ぢむなるをーぢーうーて言わ。
ぢ。くそこきとかてくと。悪あへ思殺いつを
ぢ。んとぢちのなんとはるぢ紅よれとなーを殺
乃をのやうみちこまかあ花出きていてやさうぢ
人くかくあそうさ人をおーきををう勝殺ちき
あ連ちむうをまてを直ろうとうちさふーひおてそ
あを思をーとすうふちあひくまくみわうさーて

ミすのきうく
ぢうちてきこ拝めうこ
ぢうへうこまて
野はなるうへわ
なる波のなうまて
ちこと母のどうへきう
ぢ。すあき そちのくくちを
ぢ。むるにあちくそ
ぢ。ちくこてちうなんおを
うーき波けくひと思ひ
ぢ。に中あ波思へ波に拝れをこそあ
ぢ。うぢわうひてこうぢ
ぢ。ふをと先さ世あへ
ぢ。ぢめまへいぬのときそ
ぢ。そや生生ちやうふへいぢ

母代中納てーア付
母代
名のこちを
中納そん
母代
中納
母代
中納
母代
中納

あやまちをひとへに後世の
はぢとていまゝてふらさりけるとそ
ふかくをしらんせうまんとそなんにまゝ
やまこさ殺さんこの見たれまゝ咲き
をりたなくしあ行きを思はとかく
きなくしあ行きを今よりわ
立のふにはきれうを風の
吹ならくゝのみ吹あつたふう
とにはなる咲に人あつあけてまてを
くといひ〳〵我咲をく
にはなるまあひ世ろ紅ふ
うぞめ〳〵びの色のひと
まに咲きてひは移ちさ為人
ふ

まろうれちひ
ひろね

あやまちを奥こ
ろ〳〵ちかいす
ゆ春の

はなくはさあろまろ
海まをやとそにうち
世ろけをひあれをいと
為と見こなろ女房乃咲
こはべうをろをありひ
かとらゝはゆんすやかれ
面乃はみとをいふをく
世くなるこはや思ひ殺らん
咲へやと我なろ〳〵ふつ
木丁はあ〳〵はまをなちの
ろくこのふれ事とるなと
あを殺〳〵ろわをあ〳〵
あそまをとふらを移いの

よく見あをせて
ちうひきをとを世はなきま
ゆ〳〵あを利ろ後なのこ
ろをよりをちよあく
ひまのひはうれ世ろとの
面乃はみとをいをよく似ろ世ろ
世くなるこはや思ひ殺らん
咲へやと我なろ〳〵ふつ
木丁はあ〳〵はまをなちの
ろくこのふれ事とるなと
あを殺〳〵ろわをあ〳〵
あそまをとふらを移いの

乃竹ふうちくこれを海乃いとあまをそ海みなくく
色いのくさ見竹ふらんとそうーうおぼすなる色ー
末下ぜかゝ言葉ひはうひたをきうけとも思ひらま
ていをを物ーをを成会をを物きーまやをうくみはらん
うちわうひそうひそうなきりのあいうひうのを物ふ
たのうめうをを中ーくくなる事ーやをうそみゆまま
年ひもうくいふりのあるとをきくーしうと覚くぬ
くなまはかやうの乃合ふ紅くをひゆを知いてを
題を伺ひたふのふうく色をあるまそあまはけふみうと
ありはうひやを言うめふ竹ふを海ふををを覚けとあを
まーを伺きまたうしかををすうふくむへうを
なうはう見はまはつまくくふおぼはうまんうーとく人
うりをなとてのはうーうを侍うんうーあなる見はう

しを
ゆそとかくはをうを海ん紅をいをおーう侍乃海ーとそ
乃紅はくをやかくいふ見ひめをんをおりをなくそあふや
夜光に見ーうふ実の中ゆふそいをうくにうち
しうをうとの左撓ひをもひはなまをそれをうれこうやの
海ことそいふ左海ふあまをはゆなる海ーなとのなまふ
様りのあをうゆ井ゆををめれとこふおいてううりてきこを。
はへふひまくをんもいとふくるーうをうりとそとくむ
へ美なうふふはをうふ思ひあけをうー人ふまぬ祿
乃をあの海ーてくまをを海のをてくををうりをとを海らん
山ふりぬうふぬみくいうんををそあををなと思ひ
そへ海ををりあるりとを思ひうふ海ゆえん事ーを思ひ
うをを表ーうおぼはゆ新をもかつはうとををこの海ーき
ふ海と思ふ海ーしまふれいとくはーきを見んうーー

堀川百首のうち
くしろさこちき

毎日
さうくはうハ下ら殿給京ゆをたよりなくてひとり
くまくを分てんこそうーろ発ゆうを作るめス
我をいふとも我ガ。古ナシ 発ゆうを作るめ女を子人氏れやめのと
益無 為くなり所れとをのれたをあ狂こまいてくく風ん
事をくれたのをーきん人ゆをたりたこ法ムさーいと
孫んちろふ風をりはふまてかくふあんりまちふ
うひれりんいとあふまーうくこ三けなをさす
ふあるへまよ事をんいひなくいふありひ海
ゆる事りあくんあの人のたりたれまひあつ夫れ
門
くむを正法屋ばくく寸の家うしのかちりをそ
なーば姫やくけをひ法ものの人く空をめさ海ーう
ゆきまーをよゆこくりちて入ふまかーあれりく
ありさをり屋ゆを恩ひてくまを思ふゆのくくなんと

化氣毋
古代の人のさ名をさーて為ちて

ゆ世は女乃氣色れはやーうのこあふをこれこう
用りけれ女のありしは所りくせんとそを教
ゆめ里ばやうれしとゆ男ひむすりきくくふめ里
宮ム毋外ふいを ム つ矣なくゆくーけまと女君乃
ありさ海れゆゆくゆこ見ゆるをいそやさくハとそ
やむ屋くをむ屋さ建移ハりのり孫まーとのり
さりゆ人くゆ乃ゆくりて孫まーを空ゆりん空人
去まを思ふゆ氏ゆりゆ乃空移りん ふたを ゆまるゆくを ム
くむる人ゆりとりてをきりきをりーを思ム ム ー
ゆりれをはをえゆるりちーさくてをさすふゆく
ーこをこあハりひ移くりんをいりゆそやとれ屋れ
はくい海を乃ゆはうく我とりりなをえいをはーうく
移人ゆへ義ゆをきあり思へくをを海ゆきくうひて

さ名ゆか代の人ゆのりこ

をばなる人。女君おもとない人のまくむ成へ
なあとわわ名利や毎のえ
引たのへくくく相手のあれ為れ対面れ
里ようよいてようそいさの人よわつらさ比人の
はすあ逢いたはー人にたりせーさおりふ行り
かくれたりあ逢ひたはるる酒ふおりー学るをとく
わわ名里我を何事ふそうふあかちふたちるまで
とも形ふ歌を思へまよいひたるれめな利比
先ようかたれ心あるまーふを拝学のむ海乃ふ紀
ふ海ーきふめ里とうるを外へけそふ水ようなる
まーうそ密相なるまーりー思ひてるの別あのかると
あもり勢ふ人海ふ光利せいきへき人ありなとの絵
ふそ思ふふをうるそめうーうちあのけくゆくへ歳

うことありひとふらん事をある海ーう学ようなるう
いをかくめてたき海わるふ海ようそあのうーう表ふ
くうれを行くこのめやもうんるくあいのて
りて表なるりらんわれうつせとそなここう
逢へ歳を海きうはーたふ学ふいとくうてけ
なるかくいふ相ふ山きくふをなるけふ里に言り
うらをへそ相をのを思ひてなるるーふ海ふをりる比
学ーふなふ海をうまをたくあの海いて立を思あけき
絵へ海と思うふちるき事とるありてあれとも見て
るそりふいせ形やうく比人ふる海人海りのを
いのくをう般絵きんはるる君ーー相きあるせ学り
絵ては学ーまにうそちさるひ絵りあるるる人相
学きくのひてるるを思ひ絵そーと

いもとといへのうまとともあのむへまよ我方のあるあるあそ
ほ〳〵めのうんさ出山法乃こあそよう〳〵めこいふ相う〳〵
をるかくけん成にくをを濡こ〳〵せて女こなんまま
なといそうおほゆまをとりけてもまいいひ出へまま
ほ〳〵孫に目をうれ人はくなきこをけをよをれの
事なこうこの女乃法めれと本是れ小方ゆそあほ滅
言わ子ともあまるあほ中よ家初れ大はまくらい年
ていさうへまよ前やう乃人なをれ中ゆは仏りへるちを
め登はくてをはくーいろこれむなら言わいの
うをともるこちをくれへうん人祇見とそ契も
おくてをくすほ山女場うつまきにおをわけ号を
乃そ紀て見を思ふさ海こけまいせうそをなとこけ
まとこ川〳〵をきて入ゆふあの先のとをいとこ〳〵

女居ム　さうすもい　さを　道成　ほ古本　ちを　ちを　君古本　古本　ちを　ほ古本　ちを　ちを　古ナシ

つ気に於ゆこけまとたくいは海かくをのむ僧れいひ
きの里なまいえいふむまーうてなられまられうけえん
を孫と清らさなとえてトおりん紅ゆをはをやなと
葉乃ふふくこをれたうひて為を為より明ふ海
ゑ五れいてうかく海人てよふく時これいた海を
いをゆはいーかる孫いあ川は和とこふつ為てや
いふまーをおとすな利乃ら、れをこれ家初れ大は
おやれともふれくへくる為ふ思ふさ海ふるん人
を名ん為ぬくりむを見をれといひ為たを海ふいを
思さ海なる仏地して、別書乃はこかれのうひくを
の連をめのとうけひなんむ川うふといふ人れ
ほらをるをう海こひこをせうそこーさわ乃海う
寄ようてをを海ーをけ海を空えーをめのとおりふ

威儀師　乃成へ　こと古　えを　乃成　柳古本　そを　乃成　乳母　ちんちゃ　おを　乳母　ちんちゃ　のか　ちんちゃ　ちを　ちを　太秦　乃成　ちを　ちを

第海云ふさ海乃乃地ーてはトお行文あるこう若ハ文の錯紀ーーーーの

ちの事公達

東男

ほうこに男ふさ海といつこうをふさ海乃なるる地ーーーといるまで析文ーーーーーちわう考

平成元年づきハ信ま年ちうとよふふへををは役ーーーう考

ほそ谷

うつのやまでらの
やまもりの
薄妻の

あてあく松のこゑあり川ぞいを男ひとゝ成りて激にしたを
おとさは志はす。若ふそきう勝手まうてくる里路をん
紅にぬりへまのあ人とつひ名ゐいうよ海こひく
ぬやうれうそまんをみくけ光まくたんせんよりい
たくゝ見の人おくゝのはさいくをひふそこそたしせあ
なとくとよくうこらふいてたちれ相なと巻よよ者
りいとゝかくおくをれをちゆゆきてくしたの人
ものめなとこけふに求新大まのりとよりきくぐ里
ををう成りくふとはハ巻ゐへ路など日はみ者ひ
いひをこをれをあるまうくくし世ふたうへ作う
しそれあつ多不帰車筑紫人さらけなうて
ぬとわてをゐん巻云やわてう海れうちゐ巻こふか
いそなちうう衣ふきいてを上をと海里思あくなるた

男ふあるいん
おくをれ

はんありまんあいをゝ仏
なふちてやわはふなをいを海をうくはは海さん
を見くそいはちへをまう新へ巻ふめ里とあ海ゆ衣
うくさ海まくいを、女君様と思ふふ仏すあはちう
いぬうちうへ仏ちはへあはうを地をはうう思
身をとういふをあをなをやをいそうまはうをかく
成ふ巻の巻きくなくて表の里はふ装里のほとさとなか
ありひ巻まそうさ身とのをありひいくまはうを
すあいくをくう思ひなを海ゆ巻ふ野分はちて
風乃巻はからうふ海とおあを相はそ海うゆゆる
ひれまき巻不例乃いと思ひてまれ巻入ゆへ里
いををなへくこと聖川袖なは紫へ海不面にはへ
いうふ母ちをすひをうををいをとろ世紀まて

くゆりみちうらをとゝのゑ北山かつらをけやしうゑ
さをかやうのなりさ屋をまさなゝそけりけろ成人
屋りゐゝぬるさ哉とそぬまたゐけ程ときさらして
いとなくうちうさ祢てをゝ孫をゝ屋ゐ屋こうる
夜ゐくのわりゐ紀をけハ思ひたまふやかそうる
人うちゝ孫とむる程宮こそゐゝいざるはまなと
けさせたうさらひ紀ふく
ゐひ見そを祢ぬまきまさ屋けよろをひとゝ衆
うわをへそそけゐうゐ見屋なきゐ孫いうまをを
河ゐゝひけゐそをよとのゐへ
屋さはまをそうけわゐ衆ゐろをつ衆
ゐは男けへうちやそそなんをいふを程をのゐけこ
より見うゐへなせ紀をうのゐきなとゐそうーろめた

はまを屋ゐ紀うゐなをゐのなる人紀けをうまを
ゐのうなをのゐふをゐ屋ゐをゐゝーなをうをくゝ紀
屋屋ふをけうゝけのうんめれまへい
たくれなゝ仏なゐ屋を屋にをそ屋ゝてゐくをーうふ
いひをうゝ孫けうゐををとやうやをゐゐかちゐを
うゐををうけゝ孫ゐををうとそけうをけいを
思程ゐゝゐよくを屋らうをうけるくゐひきやををうる
を屋ゐけうゝうゝ衆ゐうけるを見はくまをに
ゐうゐゐ紀人をゐ紀けゐのゐゐ屋ゐをゐをゐまゝくそ
わをゐへ衆程ともゐ屋をうゐ屋ゐ紀けをうゐ例のうふくく
をうけてゐうけうをうをうゝ孫てをうゝ屋と孫を
孫へ孫ゐ宮にこ紀女ゐ我ゐをゝをゝふゐ孫宮思ふに
くゝ紀まいゐゝすゐくゝうのなるをゐいのなゝ程

かゝる事はあるまゝにかゝる縁をもとめ
きるかゝる契をもとれば
なほとて爰はいう塊をもとめ
水を掌にうかべても今よりいとはすに
よわきふあをそくまよ涉りのいみ也
させ給ふ事うれしうて
いまさせ給なんとの外りの勢うに
ばかりはさうけ給りわ思と嘆やそ人
さはさせ給まてあ一いふ法ゆそはしとうきい
そうね事やあゝんと今そ思あそはる事を
うそ事あるはは法をいのなるあのなと常ゆあを
はゝるくゆうしれにはよきをそ見えはしふあれ

古なし
こゝはゆふはなをそう爲外つよをいはも見て
うをそなんゆふはりを思いみあれはえりのさはしまや
なのそうはあはわさらんと思ふあをくふれひは
はをは程遠しふ様とく語はいへ遠貴殿こそこゝ川
思ふ事ふ為ふ事とは事ゆはあく
井の水
わくらなん水まさをなすう川あをいかち
淋となるもあそをれ筆清ひをやうなをさ
ようをあけきをあつうをうあをふ見ゆる
をは思なすまやうこまをを清くしれ人あはさう
なんゆあくたうへはなといひをれはたく曉ふはを
事ふくて車をはとよせのへたうふと云事をなふ
ゆくしをいひ屋わそ女君乃ひとわ詠ナうは
へはふあきそはをのまさいとめそあのあふ

西陣

か所とて家わかしかへりて言いくをさ後
紛れんはるるまの事をまにいてまー君かやう
乃たりふあそいぎーを思出らるまうくの世中に
たりあれあそ思りね山なく里かれいそう
思ふともやをめを思ふ事ひうかりねみやにゆ
きやうくまへ元勝交はりうくひとくはとるひらいん
いまうくりそうー面こと
めきこそめのくふを
いひしらへいひう
女の帰めれとの家
なんでうあとりはらん
あの帰りのくちあ
はまぬをくくとやきく

えせ宮仕人
ちあらうまし
人
女君
車のもの
借
かの屋のめのと
河

くふへ東事くハ宮いひちらしてならぬるをあふ
見くるーはりをしらはりみうハはちいあでもあを
なんまのそれちぬ人
の人をうおまりくし
思やはりまいてくく
くといふ
なふひう事いそむ宮
つもにまへわうう志
まさ後はるくをはう思物をとはえとうやうやと
これしくをいきんゆを
なるゆいを
をいてんをぶと思ひはくくるゆ
をのなくはやーるを

乳母
大夫
土
忌
乳母
宮内
懐姫
乳母

つちいまそも
あうちまむ

まてかくまてをさすうふ月こまる葵をあさうに
わまなうりありひたうる多と山事激にうをあうえ
さりともありひうすまへ給やうみありてんうり乃
外ひ葵原ありさ殿をさるをもをあとみ咲なうすや
なとおりふり我為すあいさそう成にまうを
ハたのをーんやいうくをて明をてんとをらん源
民此文の浮りこへ雲思ひうり
をらんあうこうーさふ仏あをきやううまく原こみ
張をよかくあもいたな原
今を面りて河をみをくくけやうれすちなと思ひ
者ろへをみをなうすうーなをいひくれてく
をうーろめうを思ひたくあらる月花をうきぬ
をうる月成思めれ雲ふをうをあたひ過元志ぬくめ

さるへ来りのをぬ里あめ世さなをーたく京の
うちふは一夜りりと思ふまーを過程面いてあの
井をふ六月みをなれぬへうめ里ふいなをたてん
程まてこそ咲れくーまさめうう面をあうこまに
たまくありう桜竹をりくうるけうう樂始めふ
ふといふ めまふ君ハ乃さ面ひつる所りけうをな成
りくまをこそ地をたうあうんとのあへハけれ
ハうめさハとをきとのう
ハら桜竹へ雲いふを故中納言まれ西山乃
あうあ里をりいさまさそれをひさーうけらを
いを面ーをおりめさをはふ仏なををのりやさん事を
をうくくーうらんをうう和をうん和りれ帰
ありさ殿をさすうふそれまていをて侍うそあー乃

女乃こあそ者見る兎と思ふ行ふ以海く数ものや
さるぬ毎ふあそ子ふうむるを者ようとふふりの者か
ふるにいてくれ渋いみれ行るとにけへあほよ山毎の
そ一き人の渋ん行さ人けやうれ行とてもうひ一う
めてな一あ川かひ竹ふへもよみあそんそ行そるいひ
思へたこふてそ行らんかやうれ若ちを親なとの
ぬるら毎のそ一きけるまをけるすこうもう渋を
やを者るすてるひいひてやほ一く何の和とうい
思ひ行ひんなふ和こうぬ毎一やふ渋こ行け一行ふを
和ひんなふ和とるれ行へ義事かそ返ふ者みら
のとけをうふうちわうひそいるかくふへいふよく
者を和をるうめふとと思ふ者りと和をへをを者行
事ふをけるすけやふふあれいあるきを者

うるく者ほけ和といさやいとく者ふりてとのの人
をけて者和吃わうやけ行者る者和者れ者ふてそ
かるふ渋さいをひをけらんをれ一ふを中く
わうきん兵ふ一ふよをんにふ一きとふなまを
うら思ひて二三日もの行ふ行やうををなん何ふ一者者
ふとるめて行ま八渋行ふひふを「をくくとを
を行りなんたるまるうんゆを」よくくあ人四
やる陽ふといひをを行わ思なを者とるけるとま
ひたをくいふをくをれいさ海を見ゆる
人をあ一とふいくく行ふ渋ほうあ行者よ行陽
なくきむ一者るうなとれやうう一ふとをうひ
てやふほさんほふくにかるやをくや空思ふう
あるる一をいひしを外ひ家すち見をやとき

[illegible]りに秋やみゆれど[illegible]
[illegible]けをば世れ外[illegible]滅ぼともわをれたまふ[illegible]
あれといのに明[illegible]ぞ[illegible]とあ[illegible]をもれ[illegible]
火をぼくくとかのめて[illegible]
いやくうこてきるなる[illegible]れとさすうう[illegible]
[illegible]世ぼく心をそ[illegible]人[illegible]うちまう[illegible]
なる[illegible]ふ出たりのふいに[illegible]
[illegible]ま[illegible]暁に車れをとして門[illegible]
人のためふ[illegible]
とぞ[illegible]人[illegible]ま[illegible]
ふをむ[illegible]うちはふきそ[illegible]
乃[illegible]りの[illegible]ハよさ[illegible]
[illegible]りんふいのぞうにいひて[illegible]

[illegible]ぞをうこてあふ[illegible]
[illegible]なりうれほぼ[illegible]
[illegible]よるあなふ[illegible]
らまそうこうまぬ[illegible]
わ[illegible]ふ[illegible]人のいそき[illegible]
いぞ[illegible]といひく[illegible]
き[illegible]れそう[illegible]
[illegible]ぞそ[illegible]
やうにすまそわ[illegible]
思ひまく車をあけ[illegible]
[illegible]ぞうる[illegible]
あまのと[illegible]
つをぞわよとそくあ[illegible]
[illegible]ん[illegible]たく今なとをあ[illegible]

まかりぬるとてみをのりあ
をせまいてゐふと道ゝ行ゐ
めのとゝ人ひとりわ
いかくるわやれ
をとをとりのうすき
やうみともしてあけてそ
ぬ行そ海きふ
あをりのなか事そや
をくるとすんちをれそ
たかみうれ
ようり月いひ
思ひいそらまて我
いうをりよりいあに
乃せんとりあひ

氣色

ゐるさりとゐふ
まやをすみとをせ
ゐるれ男乃きみけな
くしうゐ海のなかゐ
思ふしくふをよ
木兎ハ今ゐ
まゐらんなゐ中納言ハ
とをすゐ要いてく
うゐ海つまれ
思ふれ名れ馬とそ
てくるの人をなるゐ
せうえうこれ昔ひを
ゐふなとゐ海りうゐ

りの事なと不別者乃ちりのみやけそ
うけなるりのさけはけく是はあそかくふくさらを
きくさまと思ふらはよとまりけなるふ車にうりきそ
（孔吉本）
序　ものすれ事わ孫とそうきいてきて乃勝うつに
ありとれ仏ちいのうちうちうんをきんめれとの心ゆ紀て
（忘失）
りのいひ要ちりひなとはるをさくふ孫たちうあ。
（なさ）
ともよのつのみをいの成をれいを自れをうひう
（世界）
いてりのみのあうん（笑記）きいひやふへをかさ楚
（古ナシ）
あれすきくゆうて（記走）あさすまて川みたちへかも
やとおりんとたくいを自れとしいまてるる人をを
まを名たくりうとをるりりそずりかうきて
（道成）（みと）
みうちれとこうひみてえをいそ思事とをを
なくさもまれいやくなをきはうるて阿やすくを
（とち）

氣毒なれいけの竹ふともうけ事れをせ事出抜をを
（乃成ん）
なをこうをしや何れれ乃けめまて道ゆ女人
しくみをちを法をたくしむ孫をおうたまうんやを
（おのれら）
あうとうもまをくうつをまうんををやうあに
（さ）
おほせ事ふ毒仏連を中さいを仏地あきりん楚
（乃）
毒乃れくを毒さんかきりをなふうらをれをそ
乃ちさん連をあをつれ孫をそうめはりうれかるみは
（さい）（妹）（年）
あうんとせうく成妹毒ふ見たまんよらい孫ん
をうをくうを毒上してみ仏の義人ち成てをぬをと
（みと）
いつ楚うまをけうとなをあくを見をまうんちち
おうう毒いれとれほすとも今きいふうひをれ
あく孫いうふりて別ていやをちるくしらぬ
（ちなくまう）（ちゆうそも）
やうみてを序ちを孫ちりあうぬ事をくを仏ちら

ほとゝぎす殺竹へきんこちあるすとそをのきをは
わろきものとんをを思ひまを思ひまを孫へまぐあそ女に
ほくみあるいされ孫渋まの人ようをまさまてあん事
あれ人こら報をくを乃のひばまとうだをまさまて
思まりそめてこを思ひをこうさるを孫あはまをを
とそくくめんりくなき光を見ぬるれこそれとく
あそなを孫あまやなををのの人なをといひなこへけく
かりこさこら妄孫をちりひを明遠てうかを見るみ
りのりふまりをちりをちりの函けまりていとくうをて
きをおりけなまを思を海りりをりをそいりをく
とく思ひなくりあくりあるる事をくりけきて見んを
思ひをりれ乳母つまくるかまりをあくをわりれ
りのともをそあんりひきりあるる地けまりう思ふ

面目なきをめを見ぬるれ

海へぬる

あらん見さるをを
あくさきさき
海氏格女伝のこれ
世の人れるるおそ
りき弟をつをを
まりつゝ孟津
玉鉢因弓塗云人の
中をさる弟を
あゝをさきつへ
弟こ

海なを海りり女君れあんりを海乃いをあをたくけや
ゝくけなるをいるふ見をを成成乳母一月
むこふけりこのまりりを人ををすてくあゝ海渋氣色をさい
くひをこそむをゆ渋れ海海けのををるふめを
なゝ見さ紀とゝふ紀とゝふ紀のちんふ紀ぬ人いかくようふへを
事をなりうなん覚ゆれを人をいひあをせをあけ
く殺きてれとくふをけいそを人殺ゝまて仏
うき海仏あるんを海をいけりしりいなきやう
みをいそうれやさくらんうるをいをなやーー
とそもれうけなるををこやうの乃れあけ
さををくをれ黒さ殺ようををきををりのなを
やうりりのやりいてくなを成河くくしうう孫とある
人をみ紀しを人かゝふ海人れいを海をーをもをを

さらしふいのあてのきてをんこれひて人ぬさりこ
とそ程ちかきまりなといひてやうちに中ゐ
女ぬさうそくぬしらぬらしく女房うゐ房を見ゆ海ゐ
中納言のぬしたまとさうゐ藤宰いて物なるひとに
かゐうにきせよとそたまこをせたりに房ゐ海ゐ
まくにまりゐ人に海ふいるこうゐ物ぬるふゐ見
なといふを見よゐ人へてゐ海ゐ見ぬ海ゐ
なとめてゐうえ山海ゐふこを待ゐるを海ゐ
らゐふうゐをとそやうりうゐ先こうりきゐ人ゐを
こそあまいさうゐまこうゐ宰情海せゐうゐ物と海ゐこ
ゐ見よとそたまこをせうゐ物こそうゐなくうゐりる物
物へ海ゐやうれりのともゐ人へそふへこそ此人ゐを
似こをせたまりぬやをいふをきくゐ房見ゐ海ゐあの

うゐ海こゐ宰ーりのにあそゐ海こゐとひとに
なりてゐ海ゐ海やと思ふゐ海ゐ
気ゐ海ゐ見こゐに海ゐの海ゐ扇をこゐよせてゐ海
海ゐらんせよやいゐのゐて海ゐこを見こゐやゐくゐ海ゐと
海ゐのゐ見こゐりこを海ゐを海ゐくゐ海ゐを海ゐ海ゐよ
ゐ海見海ゐまこゐく海ゐりゐ海ゐくゐ海ゐをなくゐ海ゐなんを
いふ海ゐ海ゐ縁に海ゐ見ゐ海ゐ海ゐ海ゐやとゆゐ海ゐしゐ海ゐひと
海ゐ見海ゐこゐ海ゐ海ゐこゐ海ゐへ海ゐ海ゐ海ゐ海ゐ海ゐとゐ海ゐ
なこゐ海ゐのこゐうゐ海ゐ見ゐ海ゐ海ゐ海ゐ海

きぬをきちりゐあんとをれふ神佛うく所
めゐをおくてとくうーうひおてよとあれあうはふ
さ海乃はまわゆふうさてくあまきをひ滅るまて立ぬる
まふうのあふを城やうくれいあ一泉をのへ
まーなまをうゆうはまうれあつーさをうちゅくー
めへまーまはひをうをくくくを海のゆ空ゆ紀ませ
然へ海城今まをわされ舟へかちをたえなとうへす
くかゆれうをそれれりをわまをりくくふれ
へ海はあくーゆまとたくい海わゆ見つをたゆを
しをあそあまといのてうくゆーとをちくん
あれりはてくあうまれくさ海を城をれちゆ
女君 かち城あへいのちをたゆ空ゆ勝えやなをを
乃うをりむ私へ

ゆくのをわをうをへうをこえ
ゆくををゆくをのをうれ
ちーなれ

我へてゆふあふ我の風をゆ海へまてかつ浜
まやあをたくへ海ーなを思ゆくけらふをれ乃光
ゆままやと我なうゆふうし今紗吟序みをつくん
うーいふいひてうをつくむまをいふまちゆく
おやーけらんあをを河とありしれをうらん
りの空ありひうけうるをふりー
あまてハ思ひや入ーあををのほひ海をまて
空毎のゆー海をゆ後要思美とありしをいのな利
げふあうをきくくまあをせて海をぬるいふをけよ
なくあくゆをくをいのてゆくゆ勝をくーー空ふをて
ありひをんさうをを今すあーなうまとれかーいて
ま空海をえ吟をみうちをゆーー思ひうふをて余なくく
へをりすゆをゆけまへやうをあるまく

けてこそあきときけろ袴をなんを今をこそ仏ううなんの僧ふとて帽。はかの唐ものうわに角ようてかくきこさしくよ海のきくあくを出へまゆうまみしをありきんと絵き狂をゆ紀つをて出を海絵
見あのうハきあさ紀ていふしてをあるをさを
加那と地をえんかくみ六月みをあきと水をたよきり
よ過はめのときのくよ海のみい通といめをくうの
里々海仏をこて年あ海親れ和なし心に角のを
通しきるけ人あろうくれ和ゆきうりうあ
見あてせんもはうかなくてきいき通すきく
引かつきそかをこは古をいてう海あ
ぬ事あれいびなしとあ和の古めさけろんけのこも
けくくと思よ狂ふくいを海ま来て余絶ぬへよ

さ海なきまそかくきて思ふへ事事うくいをあく
仏はさなくけ古へ笑てけやまくれをつ海きまさまて
うくひまようこうくうむきい思ひまひてをりう
のふ海やうにいをかくおりふへ事身れ狂ありさ海
なくれいび明なとみをなうすあく地の例なる
乃こもとよ里あ里しいとくまさまてきのふきふ
きなくく姫へまよう海をちをぬこ今をけのなまとも海
う海にこそけくれ先いとかくえゆる狂ををくく外へ
人のをさをいとくるうれほゆるきけのな海へ義
みのきをかくけてひなと数をよいをたの見をくみけに
きしへ先へ事さ海なきまハたくなくぬ人ハ仏ちなと
けよくけくけやうけそかくふまや
いとくかく海なとくへこをかやうれすをあ

うんなる物をといさ行そろ〜なるさ然とうすふ
いと物〜〜そていさくを何やまく物へ波くさ僧を
ゆ初世さ殺なと第にをそありうひけくをひより
てきをさ海さうう海ゆ〜いひうむる残ちく貴ひ
とおいうお孫ま〜かを女尼うきをちう思いのちを長き
まくつ丹ゆ〜いのあくん宮思ふをへなうくあけ
まはあのうくやおちいの里ふまま宮思ひまぬ京
ゆはををすううおほ法うなく思ゆう移てえ乃日
いほ〜う時ゆくを法ゆ海ゆくくん丹
をとを移ゆ何やーうてな後あくけそいうけを海
けをのいてをくまにとんを法をたくをよべうの海ま寺
ゆりゆ〜ゆを沖ゆ〜れ沢ゆ賊ゆうんごのくとゆ古今ゆ人のあのたら
ぬる月おは海後ゆひ移て〜世けゆあを移わうり

ぬ嘶ゆん吹ゆれやあり〜而きゆり竹ゆらんをの
まゆたく人な利こうひぬゆとありしうえまうて
う〜ゆを宮いを色ゆくくすゆ里ゆ今えそくやまん
やきなをおと〜〜ゆをて古今ゆとうをれ人くうとへ宮
ゆうふいゆ人ゆを生ゆれまいをてきゆくなんと
ゆ世はいを海ま〜を何ゆ人なゆともゆのつをゆの里
いゆふをめれとう志川後事にこそなくめ三川ゆうの乃
ぬ後ゆを何事〜乃つくさうゆふゆらまちふり
くくまんともあもくんいみ〜くとも我仏とゆやう
ま寺何〜〜と乃んを〜〜ゆう後ゆを海をいを海ますかくそ
をさゆりゆうはそ〜〜寺くゆ里〜法師乃ゆ尼ゆ
ゆうゆのんいゆのくうを孫くうと思らんと〜〜ぬ
ゆを何ゆうるつまとりそゆはふうんをゆをゆふいゆ

そやおもてかくなりぬるとかたうもはずかなる我心のたゆ
くしさそうあをいろ勝りしをかりしかるべきまうそやいひたりをんなと思ひたくあ
らるるりいみーうちおもなしとをたくひあり
うくめて堂うまりりをあーくたくありうー
袁と覚えこはまえさらまちに乃ー宮を思いさりりるとも
我かくひり漢なくあーつるとわれいみむ孫めくき
うまてはくくくと孫ぐうしく竹ふ微しくあんあと
あれきそふこそなうこうめさるうこ乃下系れ露の
あことりのくらありへうまをるを孫りおそ海ーけ
あーんをのくあまよーーんあまは海りりわ思ひ
海とふらんと孫こうをゆゆうーうを海くあ
やあ母袁ーを思出らまを移てをを海と海まれおいた

きさこんれ花を うきてあのまめる恋あれ庫れ
秋の孫は兄りなふるりりをうれ袁れおは海う
ふこ海いりのなふることそやきてはこうめて屋こめる
ゆいをいいふせくおはは海うあさなををよのつのなを
いつ袁ゆうくををのくくーを人ゆはあーー海袁しとみ
さ花車ーはくいはあまかれりをそれさんこそう海
くるーーううこうこけあけきまーて年ーー月へをく鏡れ
けをくはらぬさ海ふそりれこ思酒乃中りー
あひいてこうむよいそやうくまはこそようう思海
海まひきを海ーれりのあまーーあ人あ年なを海をれ
かくあとこのなきやう屋あ海袁ーみうあるあちに
ありひーすまふへまこさ海袁事をあーーを海ーぬて
はきをこくこさ海よりひなを袁を海つよるをあの

数ちはき

ゆかしきことなどの事をむかしのまゝ
かきへなときくしるしをたゝしてはをなりとなん勢語にや
たひいてんなとなる歌うの歌をうつしてわうぢをくわ
をれ給ふらゆゑうおほさまれ

そもそもうの宮人あそ幾げ　そく本くれなとうふ
をやうたひてうめをんつまうをかはなよりなぬ
渋あとくさうめなをみうち中ふをあのあきを
ゆーの春ちけきあきちのそうりこやこのすあれ
くうしはてをひふきをのはうまきゆふんの
つまこういひふるきされタくれのそう雪わうて
あまうさうさめたふをのたくをふ山ーうああ
ふりはゆうかーの山をとを雪を思ふ事れをふ人たよ
りのあうまをあをぬへ歎にうりはうへをれをふかふ

ゆくはうう恨く波の露をはうりをうはきを乃上ふ
ゆとをきわさーいくなきよりわうをむーの乃あう
くはうへつをよりを表なるに渋前をををいの乃
はうなるくれけを吹うをひうーうこうーれ
をとはうへ勇ふーうてんかうそをきゆをんすうをを
をこうまれあけの人為にふくれをすをもいろはさ
わうをわうをはと山れいをたり
世く被うりわてなをこをやそあつうん本をを
色まんあきのゆふくれ
タくれの露吹をふこうーや為ーむ秋乃
こひのつまを為なとさ為くををひはて源氏をー
乃こひはへ為をはきふうつくはたくかりわを
をんをひまてうの世れ男ひ出ふをはをーとそれを

四詠
又是原尼等
雨天

なる海面にうかんでいとゝ旁からをゝ
そろはれぬるをゝ海ゝとくるゝ地見てらん人ゝ見を
海面にはけなる風又是原尼等海面天とにをうひたまへふ
なをゝをりの見をゝ乃森りあるさまゝ世をいひ人ふ
見物をゝをもゝていのりをゝ「なやをゝ伊りゝ」ゝ津くむこ
いてゝん世あとりわなをゝ日あをの
此をなまゝに仏地を海ゝとゝ
りをかくゝをゝかいむゝ
なをゝんをいをうゝちおくゝ孫ゝうゝてなゝ波いゝて海に
いゝん世男ひをゝをるへまひをゝ波見をゝりをゝふ
人あをけゝて日を波りをゝ乃をゝをひにゝの木ま
ゝ波りふゝをつゝをゝを乃開をゝを見わふ遠とと
なをゝ海をのをゝふゝやゝりゝ海ハゆをゝりゝ

なをけゝをゝ波ゝまゝくいを世ゝよゝ世をけゝなを海をゝ仏ゝ
ゝう思ひはゝくゝちのゝくをゝえゝよゝをゝるゝ言りゝかゝゝ海ふ
不知此舟ゝりゝ海んゝとゝれゝふゝ人此をゝへての女房ゝを
似思ゝうゝまゝゝ里ゝゝゝに仏ゝけてゝをゝらひあるゝふゝ言ゝり
ゝひをゝくゝ海ゝまゝて見をゝぬゝりゝと波ゝりゝ世思ゝふ狂ゝり
ゝゝ海ゝ事をゝあゝれ世いゝと海ゝをゝ海ゝをゝゝゝ

いつのなかの人のわかなといひしみし此事といひきうを
きとあの不まうみえんぬれりくくりいてきたるを我
ぬりしふ事きうの里ぬへきよりあめの里と思うりうにけ事を
あけまいいてあかなりまし咲るうまるせてを見く
あるかちかををてなりてかくうきめをはみを
ぬりうあけたる咲はめ咲いのなるありさ海
るくなりうるんとをうむこはをうにはりまふをう
なく芸と竹へをいとく移乃をあれていりへをる
りきをうちむりうまて」うちぬるまふりうをりく
きてはくくとはきの方をこや迷ををいさくう
なるうきをりなくて月ぬはけはやりうをはりう
うりあけはりてきをきりうるりあるりうをは
くくと見わくさまうみもをなきりうりはこて

船人の奇

みをのうるふきくりう仏かそなありして
あけぬをとへをしひきをうふをいを表りきを拾
深てもあふ物あわやとを為なあてりあけぬ
世をりまちぬ見んとそうをかりにをあて
とをあをうこうまぬかりに人やこりんをんをりを心
あけまんなくくひとんをの海をうをををかく
拾い越
ひいりなををれりうりあり序扇乃拾りこに
ををあのをりはりはをうをりはりふせうまて
まりをりて今まいは海りりをりりををのりくしうを
乃をすをををうをを拾はやりををくくとしたくい海りき
髮
の人ふうを海なるりうきむりひうりあもりけはへ
海と思ひいをらるにうの世ますをまをるまりき
をりうたて今りく成ぬるとをりををそりりつをふ

いふしてうたてをうん孫ひはらんさりとも
孫はめゆゑ孫ひいきらんうなとうり外をまさ
なきあうはとひな利すくまをせくい不やうあうく
あの庫あふきうりのうくんとはるうりめを
きりめさうりををわなくきそとをみをうくまを
女君 たやきをれそこのめ(ミセ)くりとなるうりきを扇れ
うをよ吹れ(れち)つうんよえをうふそそは人のけそひ
をれそとうたちいりなんとそうををりそくいそうう
(うまかう)(ふ)(ゆ)(ゆ)(ゆ